

青木美智男教授 履歴・業績

青木美智男教授 履歴・業績

〔履歴〕

- 一九三六年一〇月七日 福島県東白川郡棚倉町南町五八番地、屋根職人の父青木清之丞・母文（同町古町内藤家）の次男として生まれる。
- 一九四〇年二月一日 四歳 母文が腎臓病で死去。
- 一九四三年四月一日 七歳 棚倉町国民学校に入学。
- 一九四四年七月七日 八歳 兄俊一郎サイパン島の日本軍玉碎で戦死。
- 一九四九年四月一日 一二歳 棚倉町立棚倉中学校に入学。
- 一九五二年四月一日 一五歳 福島県立東白川農業商業高等学校商業科に入学。
- 一九五五年四月一日 一八歳 完全治癒のための療養生活に入る。
- 一九五八年四月一日 二一歳 明治大学文学部史学地理学科に入学。
- 一九六二年四月一日 二四歳 東北大学大学院文学研究科国史学専攻修士課程に入学。
- 一九六三年四月一四日 二五歳 木村礎先生御夫妻の媒酌で白木原恵美子と結婚。
- 一九六五年三月三十一日 二七歳 東北大学大学院文学研究科国史学専攻修士課程を修了。
- 一九六八年五月 三一歳 神奈川県史調査員兼執筆委員に任命される。
- 神奈川大学経済学部非常勤講師となる。
- 一九六九年九月 三二歳 中央大学法学部非常勤講師となる。
- 一九七二年七月 三五歳 七月二七日 長男耕誕生。
- 一九七七年四月一日 三九歳 日本福祉大学社会福祉学部助教となる。
- 一九八二年四月一日 四四歳 日本福祉大学経済学部教授となる。
- 一九八八年四月一日 五〇歳 日本福祉大学に知多半島総合研究所を設立し、歴史・民俗部会の研究主任となる。
- 一九九七年四月一日 六〇歳 専修大学文学部人文学科史学コース（後に歴史学専攻）教授となり、現在に至る。

〔單 著〕

- ◇ 『天保騒動記』三省堂、一九七九年二月
- ◇ 『文化文政期の民衆と文化』文化書房博文社、一九八五年三月
- ◇ 『一茶の時代』校倉書房、一九八八年四月
- ◇ 『大系日本の歴史⑩ 近代の予兆』小学館、一九八九年二月（小学館ライブラリー、一九九三年六月改版発行）
- ◇ 『近世尾張の海村と海運』校倉書房、一九九七年四月
- ◇ 『百姓一揆の時代』校倉書房、一九九九年一月
- ◇ 『深読み浮世風呂』小学館、二〇〇三年一月
- ◇ 『近世非領国地域の民衆運動と郡中議定』ゆまに書房、二〇〇四年二月
- ◇ 『教科書』『高校日本史』久保哲三・宮原武夫ほか共編、実教出版株式会社、一九八〇年一月
- ◇ 『一揆① 一揆史入門』入間田宣夫ほか六人と共編、東京大学出版会、一九八一年一月
- ◇ 『講座日本近世史 6 天保期の政治と社会』山田忠雄と共編、有斐閣、一九八一年四月
- ◇ 『一揆④ 生活・文化・思想』入間田宣夫ほか六人と共編、東京大学出版会、一九八一年八月
- ◇ 『一揆⑤ 一揆と国家』入間田宣夫ほか六人と共編、東京大学出版会、一九八一年一〇月
- ◇ 『講座日本近世史 7 開国』河内八郎と共編、有斐閣、一九八五年五月
- ◇ 『ファミリー版 世界と日本の歴史 8 近代 3 アジアの風雲』保坂智・斉藤純と共編、大月書店、一九八八年七月
- ◇ 『教科書』『詳解日本史』深谷克己ほか共編、三省堂、一九九〇年三月
- ◇ 『争点日本の歴史 5 近世編』保坂智と共編、新人物往来社、一九九一年四月
- ◇ 『講座日本近世史 10 近世史への招待』佐藤誠朗と共編、有斐閣、一九九二年三月
- ◇ 『謎の日本史 江戸・幕末維新』新人物往来社、一九九二年七月
- ◇ 『新視点日本の歴史 5 近世編』保坂智と共編、新人物往来社、一九九三年六月
- ◇ 『教科書』『明解日本史 A』深谷克己ほかと共編、三省堂、一九九四年三月

〔史料集・史料紹介〕

- ◇『日本の近世17 東と西 江戸と上方』中央公論社、一九九四年三月
- ◇〔教科書〕『明解日本史A 改訂版』深谷克己・木村茂光ほかと共編、三省堂、一九九八年三月
- ◇『教員になる人のための日本史』木村茂光と共編、新人物往来社、一九九八年九月
- ◇『幕末維新と民衆社会』阿部恒久と共編、高志書院、一九九八年一〇月
- ◇〔教科書〕『詳解日本史B 改訂版』深谷克己・木村茂光ほかと共編、三省堂、一九九九年三月
- ◇『事典しらべる江戸時代』林英夫と共編、柏書房、二〇〇一年一〇月
- ◇『展望 日本歴史16 近世の思想・文化』若尾政希と共編、東京堂出版、二〇〇二年四月
- ◇『番付で読む江戸時代』林英夫と共編、柏書房、二〇〇三年九月
- ◇『文政・天保期の史料と研究』ゆまに書房、二〇〇五年四月
- ◇『近代社会の諸相―個・地域・国家―』西川正雄と監修、ゆまに書房、二〇〇五年一二月
- ◇『出羽国村山郡「郡中議定」』山形市史編集委員会編『山形市史編集資料四』一九六七年二月
- ◇『宝永四年富士山噴火、翌五年酒匂川大口堤決壊とその復旧をめぐる史料について―旧千津嶋村の場合―』『史談足柄』六集、一九六八年三月
- ◇『多摩郡廻田村における武州農兵に関する史料』『東村山市史 史料集4』東村山市史編纂委員会、一九六九年三月
- ◇『旗本新見家に残された天保十二年『三方領知替』中止をめぐる史料』『神奈川県史研究』一八号、一九七二年一二月
- ◇『慶応四年、小田原藩領における農兵取立計画資料』『史談足柄』一一集、一九七三年三月
- ◇『津久井土平治騒動をめぐる『酒造一乱記』と『県中騒動趣留メ』について』(川鍋定男と共編)『神奈川県史研究』二二号、一九七三年九月
- ◇『一農民のみたッええじゃないか―武州橘樹郡梶ヶ谷村田村庄左衛門の「旅中控」の紹介―』『神奈川県史研究』二六号、一九七四年一二月

◇矢祭町史編纂委員会『矢祭町史研究(2) 源藏・郡藏日記―近世農民の見たまま聞いたまま―』一九七九年九月
◇矢祭町史編纂委員会『矢祭町史研究(3) 資料にみる昔の村・今の町』一九八〇年九月

◇「箱根山麓豆州塚原新田で発見された大塩平八郎関係書状類」『日本福祉大学研究紀要』五九号、一九八四年二月

◇『東海道神奈川宿本陣石井日記 文政十一年～文政十三年』(梶川武と校訂) みしま書房、一九八五年十二月

◇「一八世紀後半、尾張藩領の『昔』と『今』―内藤東甫『手杵』に見る七代藩主宗春が残したもの―」『知多半島の歴史と現在』八号、一九九七年三月

◇「『世事見聞録』の世界」『歴史と地理』五一九号、山川出版社、一九九八年二月

◇『近世社会福祉史料・秋田感恩講文書』(庄司拓也校訂) 校倉書房 二〇〇〇年二月

◇『東海道神奈川宿本陣石井順孝日記1 文政六年～文政八年』(小林風・石綿豊大校訂) ゆまに書房、二〇〇一年五月

◇『東海道神奈川宿本陣石井順孝日記2 文政九年～文政十二年』(小林風・石綿豊大校訂) ゆまに書房、二〇〇二年六月

◇『東海道神奈川宿本陣石井順孝日記3 文政十三年～天保四年』(小林風・石綿豊大校訂) ゆまに書房、二〇〇三年五月

〔共 著〕

◇「佐倉藩羽州領の成立とその構造」『羽州領制の展開』木村礎・杉本敏夫編『譜代藩政の展開と明治維新』文雅堂銀行研究社、一九六三年一〇月

◇「近世の政治と経済(Ⅱ)」井上光貞・永原慶二編『日本史研究入門 Ⅲ』東京大学出版会、一九六九年八月

◇「慶応二年、羽州村山地方の世直し一揆」佐々木潤之介編『村方騒動と世直し 上』青木書店、一九七二年三月

◇「『元文一揆』の展開と構造」明治大学内藤家文書研究会『譜代藩の研究―譜代内藤藩の藩政と藩領―』八木書店、一九七二年八月

◇「幕末における農民闘争と農兵制―とくに出羽国村山地方の農兵組織の展開を中心に―」大館右喜・森安彦編『論集 日本歴史8 幕藩体制Ⅱ』有精堂、一九七三年七月

◇「報告と討論・世直しの状況の諸問題―報告1・2―」(佐々木潤之介と共同執筆) 佐々木潤之介編『村方騒動

- と世直し 下』青木書店、一九七三年一〇月
- ◇「本百姓体制の解体をめぐる」『人民闘争の諸画期』津田秀夫編『シンポジウム日本歴史13 幕藩制の動揺』学生社、一九七四年八月
- ◇「救民」のたたかい」『民衆と天保の改革』佐々木潤之介編『日本民衆の歴史』三省堂、一九七四年八月
- ◇「文明開化」と伝統」江村栄一・中村政則編『日本民衆の歴史』三省堂、一九七四年九月
- ◇「幕藩体制研究」歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題② 共同体・奴隸制・封建制』青木書店、一九七四年九月
- ◇「本庄栄治郎」「土屋喬雄」永原慶二・鹿野政直編『日本の歴史家』日本評論社、一九七六年五月
- ◇「日本近世史研究と古文書―主に地方文書を中心に―」歴史科学協議会編『歴史科学への道 上』校倉書房、一九七六年六月
- ◇「天保期羽州村山地方の農民闘争」北島正元編『幕藩体制国家解体過程の研究』吉川弘文館、一九七八年一月
- ◇「闘う農民・市民たち」大石慎三郎編『日本史(五) 近世』有斐閣、一九七八年九月
- ◇「天保期、関東における一揆と打ちこわし」百姓一揆研究会編『天保期の人民闘争と社会変革 上』校倉書房、一九八〇年十一月
- ◇「幕藩体制下における階級闘争」林基監修・階級闘争史研究会編『階級闘争の歴史と理論―前近代社会における階級闘争―』青木書店、一九八〇年一二月
- ◇「幕末・維新期の世直し騒動」佐藤誠朗・河内八郎編『講座日本近世史』幕藩制国家の崩壊』有斐閣、一九八一年三月
- ◇「大塩の乱をめぐるその後の動向」百姓一揆研究会編『天保期の人民闘争と社会変革 下』校倉書房、一九八二年二月
- ◇「一茶と北斎」日本福祉大学文化問題談話会編『文化への視点』光和堂、一九八二年六月
- ◇「村方騒動と民衆的社会意識」講座日本歴史6 近世2』東京大学出版会、一九八五年四月
- ◇「俳人一茶の社会意識」日本福祉大学文化問題談話会編『文化への攻勢』光和堂、一九八五年五月
- ◇「近世文芸と庶民生活」歴史科学協議会編『歴史科学入門』三省堂、一九八六年九月
- ◇「人民闘争史研究をめぐる」歴史科学協議会編『現代を生きる歴史科学③』大月書店、一九八七年八月

- ◇「近世初期伊勢湾岸村落の家族と婚姻について―寛文六年尾州知多郡師崎村「惣百姓宗門改并寺手形連判帳」の分析を通して―」渡辺信夫編『近世日本の民衆文化と政治』河出書房新社、一九九二年四月
- ◇「社会福祉」NHKデータ情報部編『ヴェジュアル百科 江戸事情 第三巻 政治社会編』雄山閣出版、一九九二年五月
- ◇「田沼時代」石ノ森章太郎『マンガ日本の歴史35 田沼時代と天明の飢饉』中央公論社、一九九二年九月（中公文庫、一九九八年七月改版発行）
- ◇「文人文化の時代」石ノ森章太郎『マンガ日本の歴史36 花開く江戸の町人文化』中央公論社、一九九二年一〇月（中公文庫、一九九八年七月改版発行）
- ◇「松平定信と大黒屋光太夫」石ノ森章太郎『マンガ日本の歴史37 寛政の改革、女帝からの使者』中央公論社、一九九二年一月（中公文庫、一九九八年八月改版発行）
- ◇「野暮が咲かせた化政文化」石ノ森章太郎『マンガ日本の歴史38 野暮が咲かせた化政文化』中央公論社、一九九二年二月（中公文庫、一九九八年八月改版発行）
- ◇「漂白の俳人 小林一茶」『見る・読む・わかる日本の歴史③ 近世』朝日新聞社、一九九二年二月
- ◇「天保の飢饉」石ノ森章太郎『マンガ日本の歴史39 飢饉と兵乱と』中央公論社、一九九三年一月（中公文庫、一九九八年九月改版発行）
- ◇「落首に詠まれた忠邦像」石ノ森章太郎『マンガ日本の歴史40 内憂外患と天保の改革』中央公論社、一九九三年二月（中公文庫、一九九八年九月改版発行）
- ◇「ペリー来航と徳川幕府」石ノ森章太郎『マンガ日本の歴史41 激動のアジア、日本の開国』中央公論社、一九九三年三月（中公文庫、一九九八年一〇月改版発行）
- ◇「村のなかの幕末・維新」石ノ森章太郎『マンガ日本の歴史42 倒幕、世直し、御一新』中央公論社、一九九三年四月（中公文庫、一九九八年一〇月改版発行）
- ◇「明治初年の維新観」石ノ森章太郎『マンガ日本の歴史43 ざんざり頭で文明開化』中央公論社、一九九三年五月（中公文庫、一九九八年一月改版発行）
- ◇「自由民権運動と漫画文化」石ノ森章太郎『マンガ日本の歴史44 民権か国権か』中央公論社、一九九三年六月（中公文庫、一九九八年一月改版発行）
- ◇「浮世絵の美」『江戸っ子の登場』「本屋と貸本屋の時代」『日本歴史館』小学館、一九九三年二月
- ◇「北前船と北国文化」福井県河野村編『第二回「西廻り」航路フォーラム』、一九九五年三月
- ◇「地域文化の生成」岩波講座『日本通史 一五巻 近世

5」岩波書店、一九九五年五月

◇「暮らしのなかの文雅」を大切に生きる生き方」[AERA-MOOK10 歴史学がわかる。]朝日新聞社、一九九五年一〇月

◇「西の押さえ名古屋城築城」「名古屋学」を築いた義直・元贇・信景・秀頼」「文化都市名古屋に伝えた本屋と巨大貸本屋の繁栄」「世界をつなぐ漂流民―重吉とにっぽん音吉―」「名古屋俳壇の雄―横井也有と加藤暁台―」林秀夫監修「江戸時代 人づくり風土記23 愛知」一九九五年一二月

◇「雪国の文化と鈴木牧之」井ヶ田良治他編「歴史の道・再発見 第三巻 家持から野麦峠まで」フォーラム・A、一九九六年七月

◇「岩田健」民衆文化の成熟「コメント」歴史教育者協議会編『前近代史の新しい学び方』青木書店、一九九六年八月

◇「近世の生活文化を見る目」歴史科学協議会編『卒業論文を書く』山川出版社、一九九七年五月

◇「酢・酒と日本の食文化」日本福祉大学知多半島総合研究所・博物館「酢の里」共編「中整家文書にみる酢造りの歴史と文化 ①」中央公論社、一九九八年一二月

◇「シンポジウム「北前船をめぐる歴史像の再検討」コメ

ントII」福井県河野村「北前船からみた河野村と敦賀湊―第四回「西廻り」航路フォーラムの記録―」河野村、一九九九年八月

◇「暮らしと文化―化政文化研究の新しい動き―」『別冊歴史読本 日本史研究最前線』新人物往来社、二〇〇〇年六月

◇「近世民衆運動研究と関係資料集」深谷克己編『民衆運動史5 世界史のなかの民衆運動』青木書店、二〇〇〇年八月

◇「遠山金四郎景元」[AERAMOOK 日本史がわかる。]朝日新聞社、二〇〇〇年一二月

◇「教科書としての配慮に欠ける叙述」『別冊歴史読本 歴史教科書大論争』新人物往来社、二〇〇一年一〇月

◇「新しい北前船の歴史像を求めて」福井県河野村編『地域から見た日本海海運―第五回「西廻り」航路フォーラムの記録―』河野村、二〇〇一年一二月

◇「近世初期、オランダ連合東インド会社平戸商館の貿易陶磁と幕藩領主」櫻井清彦・菊池誠一編『近世日越交流史―日本町・陶磁器―』柏書房、二〇〇二年五月

◇「江戸時代の教育―静かな三〇〇年―」小手指公民館歴史講座講義録『ふり返ってみる教育の4世紀―人は何を学び伝えてきたのか―』所沢市小手指公民館、二〇〇二

年六月

◇「経済思想の台頭」「安藤昌益」「百姓一揆の思想」「世直しとええじゃないか」竹内誠編『ビジュアル・ワイド江戸時代館』小学館、二〇〇二年一月

◇「近世庶民文芸にあらわれた女性のデモクラシー」ピエール・スイリ、西川正雄、近江吉明編『歴史におけるデモクラシーと集会』専修大学出版局、二〇〇三年一月
◇「地域の自覚―往来物と名所図会―」井上勲編『日本の時代史29 日本史の環境』吉川弘文館、二〇〇四年一月

◇「見立番付」鶴飼政志他編『歴史をよむ』東京大学出版会、二〇〇四年一月

◇「一〇六回の『西廻り航路』フォーラムを振り返って―北前船研究に河野村が果たした役割―」福井県河野村編『北前船から見た地域史像―第六回「西廻り」航路フォーラムの記録―』河野村、二〇〇四年二月

◇「大塩平八郎の謎15」「改訂新版 日本史の謎」世界文化社、二〇〇五年一月

◇「北前船の時代と天領佐渡の文化」【第二〇回全国天領ゼミナール記録集】二〇〇五年八月

◇「環伊勢湾の文化風土」日本福祉大学知多半島総合研究所『シンポジウム記録 環伊勢湾産業観光のルーツをた

ずねて』二〇〇五年二月

◇「野暮が咲かせた江戸の文化」平塚市ふるさと歴史シンポジウム実行委員会編『江戸の娯楽と交流の道』二〇〇六年三月

◇「専売品と特産物」北前船の活躍「食文化の楽しみ」「不満の爆発」山本博文編『ビジュアル NIPPON 江戸時代』小学館、二〇〇六年一月

〔論文・書評・その他〕

◇「松川事件の背景―占領政策と労働運動―」『駿河台日本史』九号、一九五九年二月

◇「近世に於ける災害の史的考察」(菅野圭子・白木原恵美子と共同執筆)『駿河台日本史』一〇号、一九六〇年二月

◇「非領国地域における領主権力の存在形態―出羽国村山地方の場合―」『歴史学研究』二八二号、一九六三年一月

◇「佐倉藩羽州領の廻米をめぐる諸問題―幕末期、最上川水運と酒田米穀市場の関連から―」『歴史』二七号、一九六四年二月

◇「一九六三年の歴史学会―回顧と展望―」近世社会経済

分野」『史学雑誌』七三編五号、一九六四年五月

◇「羽州村山地方における幕領諸藩領の展開」『駿台史学』一六号、一九六五年三月

◇「最近の百姓一揆研究から―林基『宝曆』天明期の社会情勢』の問題点―」『歴史論』二号、一九六五年一〇月

◇「『豪農論』の現段階での意義―一九五五年以降の日本近世史（中後期）研究の整理から―」『歴史学研究』三二二号、一九六六年五月

◇「日本近世史研究の当面する課題―一九六六年度近世史サマー・セミナー報告―」『歴史学研究』三二一八号、一九六六年一月

◇「岩城平藩『元文一揆』の前提―元禄・享保期の地主及び中農層の経営分析から―」『地方史研究』八八号、一九六七年三月

◇「『世直し状況』の経済構造と階級闘争の特質―出羽国村山地方の分析を中心として―」『歴史学研究』三二二六号、一九六七年七月

◇「幕末における農民闘争と農兵制―とくに出羽国村山地方の農兵組織の展開を中心に―」『日本史研究』九七号、一九六八年四月

◇「はじめに―近世・近代史部会 維新変革と階級闘争（農民闘争）―」『歴史学研究』三三三六号、一九六八年

五月

◇「慶応期の階級闘争をめぐる問題点」『歴史学研究』三三六号、一九六八年五月

◇「近世初期岩城平藩における新田開発」（土井浩と共同執筆）『駿台史学』一三三号、一九六八年九月

◇「近世後期、相模国内における江川代官領の変遷」（小松郁夫と共同執筆）『神奈川県史研究』一号、一九六八年一〇月

◇「『小百姓』―わが近代化の担い手―」『企業庁だより』四六号、神奈川県企業庁、一九六九年一月

◇「近世前期、相模国足柄上郡千津嶋村農民の家族構成」『史談足柄』七集、一九六九年三月

◇「相州西郡千津嶋村吉利支丹改帳」『企業庁だより』四八号、神奈川県企業庁、一九六九年五月

◇「相模国の大名領」『企業庁だより』四九号、神奈川県企業庁、一九六九年七月

◇「義民下田隼人の伝承」『企業庁だより』五〇号、神奈川県企業庁、一九六九年八月

◇「維新変革と幕藩制―その構造的特質の解明から―」『歴史学研究』三三二二号、一九六九年九月

◇「酒匂川と小百姓」『企業庁だより』五一号、神奈川県企業庁、一九六九年十一月

- ◇〔書評〕「深谷克己著『寛政期の藤堂藩』」『歴史学研究』三五六号、一九七〇年一月
- ◇「酒匂川の洪水と闘う小百姓」『企業庁だより』五二二号、神奈川県企業庁、一九七〇年一月
- ◇「年貢のはなし」『企業庁だより』五三三号、神奈川県企業庁、一九七〇年三月
- ◇「日本近世史研究の一視点」『歴史評論』二二二六号、一九七〇年四月
- ◇「むら」となぬし」『企業庁だより』五四号、神奈川県企業庁、一九七〇年五月
- ◇「維新変革の再検討」の新たな前進のために」『歴史学研究』三六〇号、一九七〇年五月
- ◇「酒匂川と田中丘陵」『企業庁だより』五五号、神奈川県企業庁、一九七〇年七月
- ◇「酒匂川と大福帳」『企業庁だより』五六号、神奈川県企業庁、一九七〇年九月
- ◇「酒匂川と二宮金次郎」『企業庁だより』五七号、神奈川県企業庁、一九七〇年十一月
- ◇「酒匂川利用をめぐる記録について」『企業庁だより』五八号、神奈川県企業庁、一九七一年一月
- ◇「共通論題『幕藩制の崩壊と関東』の報告と討論を聞いて考えたこと」『地方史研究』二二二(二)、一九七一年四月
- ◇「封建的危機と民族的危機について」『歴史学研究』三七二号、一九七一年五月
- ◇「幕藩制の危機と世直し状況」『歴史学研究別冊特集 世界史認識と人民闘争史研究の課題』一九七一年一〇月
- ◇「幕末における、ある村芝居興行と世直しについて」『歴史学研究』三七八号、一九七一年一月
- ◇「高等学校日本史教科書における沖縄の取扱いについて(一)」『歴史学研究』三八〇号、一九七二年一月
- ◇「高等学校日本史教科書における沖縄の取扱いについて(二)」『歴史学研究』三八一号、一九七二年二月
- ◇〔書評〕「庄司吉之助著『世直し一揆の研究』」『歴史評論』二六〇号、一九七二年三月
- ◇「南関東における『ええじゃないか』」(三浦俊明と共同執筆)『歴史学研究』三八五号、一九七二年六月
- ◇「六〇年代維新史研究と幕藩体制論」『歴史評論』二六六号、一九七二年八月
- ◇「天保一三年羽州村山郡幕領における『私領渡し』反対運動」『地方史研究』二二五号、一九七三年一〇月
- ◇「慶応三年秋箱根・小田原地方における『お札降り』について」『史談足柄』二二集、一九七四年三月
- ◇「歴史を学ぶ者の任務」国学院大学史学会『史友』六三

号、一九七四年五月

◇「科学的な近世史科学の確立を」『歴史評論』二八九号、一九七四年五月

◇「日本封建制解体期の階級闘争」『階級闘争史研究会月報』六・七号合併、一九七六年一月

◇「一般教養歴史学担当の立場から」『日本の科学者』一(四)、一九七六年四月

◇「書評」『小学館版「日本の歴史」(近世)を読んで』『歴史評論』三三四号、一九七六年六月

◇「第二八回歴史協大会に参加して」とくに大学分科会の様子について」『歴史学研究』四三七号、一九七六年一〇月

◇「御一新を求めて―北原進・芳賀登との座談会―」『歴史公論』五号、一九七七年二月

◇「大塩の乱と関東農村」『大塩研究』四号、一九七七年一〇月

◇「書評」『庄司吉之助著「史料東北諸藩百姓一揆の研究」』『歴史学研究』三六五号、一九七七年一〇月

◇「書評」『加藤康昭著「日本盲人社会史」』『季刊 障害者問題研究』一六号、一九七八年一〇月

◇「民衆」概念の歴史的変遷について」日本福祉大学社会科学研究所「研究所報」九号、一九七八年一二月

◇「江戸期農民の意識と農村指導者」『歴史評論』三四四号、一九七八年一二月

◇「村の自治―その自衛と共働―」『ジュリスト増刊総合特集 地方自治の可能性』一九号、一九八〇年七月

◇「近世史科学へのアプローチ」とくに日本近世村方文書の特徴と保存の意義」日本福祉大学社会科学研究所「研究所報」一七号、一九八〇年一二月

◇「江戸時代の地方役人」『ジュリスト増刊総合特集 地方の新時代と公務員』二二二号、一九八一年四月

◇「村芝居と世直し」『伝統と現代』七四号、一九八二年一・三月合併号

◇「などということもあって」という日本史教科書の文章」『日本の科学者』一七(二)、一九八二年二月

◇「書評」『深谷克己著「南部百姓命助の生涯」』『朝日ジャーナル』二五卷二二号、一九八三年五月

◇「地域史の立場から羽州村山郡の「郡中議定」の検討を」『地方史研究』一八四号、一九八三年八月

◇「史料としての近世文芸」『歴史評論』四〇九号、一九八四年五月

◇「一編集協力者の目から見た教科書問題」『歴史評論』四一四号、一九八四年一〇月

◇「一茶の時代」『朝日新聞』名古屋版夕刊①⑤、一九

八六年八月～九月一三日

◇『日本文化論』批判の視点と課題』『歴史評論』四三七号、一九八六年九月

◇「小林一茶の『遊民』意識に関する経済思想的考察」

『日本福祉大学研究紀要』七一号（二）、一九八七年三月

◇「日本史教材としての近世俳句—小林一茶の俳句を中心に—」『三省堂高校社会科学教育ぶつくれつ』八号、一九八七年四月

◇「小林一茶の国学的自国意識と世直し願望」『日本福祉大学研究紀要』七十二号、一九八七年六月

◇「一俳人の詠んだ江戸下層民と出稼ぎ人の哀歎—小林一茶の句集から—」『日本福祉大学研究紀要』七四号（三）、一九八七年二月

◇「近世社会の生活空間と民衆文化」『三省堂高校社会科学教育ぶつくれつ』一五号、一九八九年六月

◇「一茶の句の中の『江戸ツ子』」『長野』一四六号、一九八九年七月

◇「史料にみる尾張国知多郡廻船惣庄屋中村家の盛衰」

『知多半島の歴史と現在』一号、一九八九年一〇月

◇「書評」『藤田覚著『天保の改革』』『歴史評論』四七五号、一九八九年一二月

◇「一九八九年度歴史学研究会大会報告批判—近世史部会—」『歴史学研究』六〇一号、一九八九年二月

◇「大坂市場を揺るがした『内海船』について」『日本歴史』五〇〇号、一九九〇年一月

◇「近世の文字社会と村落での文字教育をめぐる—長野県史—」通史編近世と網野善彦氏の近業に刺激されて—『信濃』四二巻二号、一九九〇年二月

◇「通訳としての漂流民」『歴史評論』四八一号、一九九〇年五月

◇「寛文六年尾州知多郡師崎村宗門改帳作成の背景—寛文年間尾張藩領隠れキリシタン発覚事件とのかかわり—」

『知多半島の歴史と現在』二号、一九九〇年九月

◇「大阪市場を脅かした『内海船』の組織と運営—尾州知多廻船仲間『我講』の成立と展開に関する素描—」『日本福祉大学経済論集』創刊号、一九九〇年一二月

◇「ペリー来航予告をめぐる幕府の対応について」『日本福祉大学経済論集』二号、一九九一年一月

◇「明治三年、尾張藩蒸気船購入資金知多郡両浦船持より調達一件史料について」『知多半島の歴史と現在』三号、一九九一年一〇月

◇「近世初期伊勢湾沿岸村落の家族と婚姻に関する新史料の紹介と分析結果について—寛文六（一六六六）年尾州

知多郡師崎村「惣百姓宗門改并寺手形連判帳」の分析を
通して―『日本福祉大学経済論集』四号、一九九二年
一月

◇「世直しを願う一茶」『日本古書通信』七六三号、一九
九三年二月

◇「大塩平八郎」『歴史読本臨時増刊 日本史を変えた人
物二〇〇人』一九九三年八月

◇「書評」石尾芳久著『海南政典・海南律令の研究』・
『海南政典の研究』『書評』一〇三三号、一九九三年一
月

◇「マンガ家と日本史研究者の接点」『歴史評論』五三〇
号、一九九四年六月

◇「大塩平八郎論―蜂起に隠されていた新事実について
―」『社会事業史研究』一二号、一九九四年一〇月

◇「江戸の文化をどうとらえるか」『歴史評論』五三六号、
一九九四年二月

◇「草鹿外吉の二つの小説について」『日本福祉大学研究
紀要』九一号、一九九四年二月

◇「近世の尾州知多半島沿岸村落と伊勢・三河湾沿岸諸都
市―伊勢湾内市場圏形成に関する素描―」『知多半島の
歴史と現在』六号、一九九五年三月

◇「一八世紀後半の尾張藩領内」NHK学園『れきし』五

〇号、一九九五年六月

◇「天保期の百姓一揆と打ちこわし」アジア民衆史研究会
編『東アジアの近代移行と民衆』一集、一九九五年七月

◇「近世知多半島の『雨池』と村落景観―民話と歴史学の
接点から―」『知多半島の歴史と現在』七号、一九九六
年三月

◇「ごんぎつねと愛知万博」『歴史地理教育』五六八号、
一九九七年一〇月

◇「近世後期の文学作品から生活文化を見る」『信濃』第
五〇巻第二号、一九九八年二月

◇「愛知県史」(第二巻)「藩政時代」の尾張・三河像」
『愛知県史研究』二号、一九九八年三月

◇「第二回目の全体的な感想―大会報告特集・歴史の方法
としての地域(2)、第三三二回大会報告をきいて―」『歴
史評論』五八七号、一九九九年三月

◇「近世尾張国知多郡の『雨池』保安林―『砂留林(山)』
の設定と森林景観」『知多半島の歴史と現在』一〇号、
一九九九年七月

◇「近世後期、下層町人女性の教養と知性―式亭三馬『浮
世風呂』を素材に―」『専修史学』三一号、二〇〇〇年
三月)

◇「尾張藩領の砂防林」『日本歴史』六二四号、二〇〇〇

年五月

◇〔書評〕「歴史教育者協議会編・斉藤純監修『図説 日本 の百姓一揆』」『歴史地理教育』六〇八号、二〇〇〇年五月

◇「近世後期、読者としての江戸下層社会の女性―式亭三馬『浮世風呂』を素材に―」『歴史評論』六〇五号、二〇〇〇年九月

◇「二つの幕末期北国諸港調査報告書―北国諸港と地域市場、近世港湾都市発掘の手がかりとして―」『専修考古学』八号、二〇〇〇年一月

◇「幕府文政改革前後の東海道神奈川宿と関東取締出役―『東海道神奈川宿本陣石井順孝日記』にみる八州廻りの実像―」『専修大学人文科学年報』三二号、二〇〇一年三月

◇「関東近世史研究会二〇〇〇年大会 高尾報告コメント」『関東近世史研究』五〇号、二〇〇一年一月

◇「東海道神奈川宿と横浜開港―地域史的視点で見える幕末日米交渉史―」『専修大学人文科学年報』三二号、二〇〇二年三月

◇「二〇〇二年度歴史学研究会大会報告批判―近世史部会―」『歴史学研究』七七〇号、二〇〇二年二月

◇「近世尾州知多郡の自然景観と『雨池』民話の生成―新

美南吉『いんぎつね』誕生の背景を探る―」『知多半島の歴史と現在』一二号、二〇〇三年三月

◇「北前船の船乗りは優れた能力の持ち主で文化人だった―北前船・河野」五号、二〇〇三年八月

◇「北越」にこだわる鈴木牧之」『日本歴史』六六八号、二〇〇四年一月

◇「フランス革命情報と日本」『フランス革命と日本・アジアの近代化』一号、二〇〇四年二月

◇「稲葉・伊藤報告を聞いて―第二日目『伝統』の歴史的根拠―」『歴史評論』六四七号、二〇〇四年三月

◇「慶応三年、佐渡奉行の佐渡諸港概況報告書―地域的市場としての佐渡諸港と新潟開港―」『専修考古学』一〇号、二〇〇四年十二月

◇「網野善彦さんを偲んで」『北前船・河野』六号 二〇〇四年四月

◇「永原慶二さんを偲んで」『北前船・河野』七号、二〇〇四年十二月

◇「佐々木潤之介さんの日本近世史研究」『歴史学研究』七九八号、二〇〇五年二月

◇「近世矢作川河口地域の人々のいとなみ」『愛知県史研究』九号、二〇〇五年三月

◇「永原慶二さんを偲ぶ」『比較家族史研究』一九号、二

〇〇五年三月

◇「俳句・戯作などから読み取る時代像」『新しい歴史学のために』二五八号、二〇〇五年八月

◇「佐々木潤之介著『大名と百姓』解説」中公文庫『日本の歴史』一五、二〇〇五年一〇月改版発行

◇「慶応三年、外国奉行の北国諸港調査報告書―開港場建設をめぐる能登国七尾港について―」『専修考古学』一
一号、二〇〇五年一二月

◇「二〇〇五年東海史学会大会講演 神奈川宿と横浜開港―地域史的視点で見る幕末日米外交史―」『東海史学』
四〇号、二〇〇六年三月

◇「平塚からみえる近世社会」『平塚市博物館研究報告
自然と文化』二九号、二〇〇六年三月

◇「小林一茶の社会性と海外認識」『アジア民衆史研究』
一一号、二〇〇六年五月

◇「来年は富士山大爆発三〇〇〇年」『古文書かわら版』三
号、二〇〇六年七月

◇「インタビュー」近世史部会「林英夫さんが歩んだ日本
近世史研究の軌跡」『愛知県史研究』一〇号、二〇〇六
年三月

◇「書評」河野徳吉著『尾張藩紙漉文化史―御用紙漉・
辰巳家を中心に―』『日本歴史』七〇一号、二〇〇六年

一〇月

以上のほかに角川書店『日本史辞典』、小学館『日本国
語大辞典』の編集、『神奈川県史』資料編、近世編、同通
史編、『新潟県史』資料編近代一の編集及び分担執筆、『愛
知県史』資料編近世の編集に参加。

(二〇〇六年一二月三日現在)